

南海トラフ巨大地震と地域の防災意識

1年4組 島田 知佳 1年4組 三好 由真

1年4組 角田 美琴 1年4組 鈴木さくら

1年4組 河野 桃華 1年3組 猪野木 凜

指導者 石丸 大祐・赤松 弘教

1 課題設定の理由

近い将来、南海トラフ巨大地震が起きると言われている。南海トラフと呼ばれる地域では100～200年間隔で、蓄積されたひずみを解放する大地震が発生しており、昭和東南海地震（1944年）、昭和南海地震（1946年）がこれに当たる。昭和東南海地震及び昭和南海地震から70年近くが経過しているため、南海トラフにおける次の大地震発生の可能性が高まっている。その被害は死者33万人、津波の高さ最大32メートル、経済被害220兆30000億円、マグニチュードは9と予想されている。さらに、宇和島市はリアス式海岸によって津波の被害はさらに大きくなると考えられている。

このことから、地域の人たちが南海トラフ巨大地震についてどのように考えているのか、またどのような対策をしているのかに興味を持ち、この課題を設定した。

2 仮説

以下の2点より地域の防災意識は高いと考える。

- (1) 東日本大震災以降マスメディアが頻繁に南海トラフ巨大地震について取り上げ、防災の呼びかけを行っていること。
- (2) 東日本大震災や阪神淡路大震災と違い宇和島市は震源から近く津波の危険性も高く、大きな被害を生じると考え、他人事にはできないということである。

3 実験・研究の方法

- (1) 方法：アンケート
- (2) 内容：地震の防災対策をしているか、対策していること・考えていること
- (3) 場所：宇和島きさいやロード、道の駅みなとオアシスうわじまきさいや広場
- (4) 対象：宇和島市民104人

4 結果と考察

表1より、すべての人が防災対策を考えているものの、行動には移せていないことが分かった。例えば、アンケートの「防災マップの把握」は容易にできることである。それにもかかわらずまだ把握ができていないということは、個人の防災意識がまだ低いということであろう。中には、非常食の賞味期限をチェックしていない、懐中電灯の点検をしていないなどの回答もあった。また、防災対策を行っていないと答えた人に、「これから防災対策を実行しようと考えているか」と尋ねたところ、すべての人が「はい」と答えた。

では、どうすれば防災対策という行動に移すことができるのだろうか。私たちは以上の調査結果から「見ないのなら、見せればよい」という考えにたどり着いた。つまり、防災マップを見せるためには、目に付くところに置けばよいのではないかと考えた。

表1 アンケート調査結果

①地震の防災対策を実行していますか			
対策している	46%	対策していない	54%
②次のうち、防災対策として実行していることはありますか			
避難袋の確保	48%	防災マップの把握	30%
津波の対策	14%	その他	8%
③次のうち、これから防災対策として実行しようと考えていることはありますか			
避難袋の確保	39%	防災マップの把握	30%
津波の対策	20%	その他	11%

5 まとめと今後の課題

「マッチ一本火事の元」のように、火災予防のポスターを街でよく見かけるのに対して、地震対策のポスターは見当たらない。阪神淡路大震災も東日本大震災も発生したことは知っているが、実際に大震災を経験したことがない私たちにとっては、やはり被害に遭う実感が湧かないからではないだろうか。つまり、マスメディアで取り上げられているうちは防災を意識するものの、時間が経てば危機感を失ってしまうのかもしれない。

そこで地域の人々に南海トラフ巨大地震への防災意識を高めてもらうためにはポスターが効果的だと考え、実際に制作して呼びかけることにした。これによって地域の防災意識が高まり、地震が起きた時に適切な行動が取れるのではないかと考える。

参考文献

- ・地震調査環境推進本部
http://www.jishin.go.jp/main/yosokuchizu/kaiko/k_nankai.htm
- ・NAVER まとめ
<http://matome.naver.jp/odai/2139262532240365501>